

大阪総合保育大学 学生

提出資料

保育の魅力

私の紹介

春から
大阪府のこども園で働きます

子どもと追いかけてっこを
して遊ぶことが好き！

好き嫌いがない私のように
なんでもモリモリ食べられる
子どもに育ててほしい！

なぜ保育を仕事にしようと思ったのか

きっかけは中学生のときの職業体験

- ・ 3日間、保育園の1歳児クラスの先生に！
- ・ 「思っていたよりも小さい！」 「初めて会ったのに私のお膝に座ってくれた！」 「一生懸命お話してくれてかわいい！」

そんな子どもの魅力に出会い、保育士になりたいと思った

高校で将来の進路に決めるときに職業体験のことを思い出し

保育を仕事にしたい！

と、子どもとたくさん関われる大阪総合保育大学に入学しました

大学では

専門的理論に加え、1年間毎週1回インターンシップ実習に行くことで、子ども一人ひとりの成長する姿や保育者のかかわりを学べた

先生から離れられなかった
〇〇くん

カーブのところで
脱線・・・

ここ持ってて...
どうやったら落ちないかな・・・

何回も繰り返す
〇〇くんの姿！

こんなことができるよ！

電車に夢中！



誰に教えられたわけでもないけれど、
小さな子どもには一人ひとり力があって
周りの人やモノとかかわって育っていく
ことを知りました



大丈夫だよ...
自分でできるかも...

育ちつつある力はすごい！

それに携われる保育の仕事は素敵！

これから

私が働く園は自ら育つ力、学ぶ力を最大限伸ばせるような保育を行っています

私はその園で、子どものやりたい！という
思いを汲み取り、**今何が育ちつつあるのか**を
学びたいと思っています

ご清聴ありがとうございました



宮城学院女子大学 学生

提出資料

「保育者として
就職するにあたって」

宮城学院女子大学
教育学部教育学科
幼児教育専攻4年生



保育者を 目指した 理由

幼少期からの憧れ

- ・ 卒園時に担任の先生からいただいた言葉

「とっても頑張り屋さんだったね。鉄棒をいっぱい練習してまめができたこと…。跳び箱や縄跳びも『もっとやる』と息をハアハアさせながら挑戦しましたね」

見守り、励まし、褒めてくれた大好きな先生



- ・ 憧れから現実にしたいという目標へ変化



- ・ 自分の本当にやりたいことは「保育」である

保育実習、幼稚園
実習での
子どもとの関わり

子どもの素直さ、
優しさ
好きなことをとこ
とん追求する姿

一つひとつの交わす
言葉
思いやりの心
遊びの中で得られる
気持ち

大学の学び
から

保育者になりたい
という
強い思いに

子どもたちからも
らっているもの
学んでいること

卒業研究

「保育者の配置基準について」

- 「保育者の配置数」が適切であるか？
- 子ども一人ひとりと丁寧な関わりをすることができるか
- 子どもと密に関わる保育が大切
- 保育者の専門性を高め、質の高い保育をすることが求められている
- 保育者の配置数を十分な数にすることが必要なのではないか

就職に向けて

「子ども主体の遊び」

子どもが満足できるまで遊びを
継続することができる環境

子どもが好きな遊びをのびのびと、
自身で考えながら行える保育

これから



子ども自身で選んだ遊びの中での発見や気づき

友だちとのコミュニケーションや保育者と子どもの気持ちの共有



子どもたちの卒園後から大人になるまでを想像し、子どもたちの人生の基盤となることを念頭に置いた保育



子ども一人ひとりを大切に
にする保育

同じ瞬間、同じ目線で心を動かし、子どもたちと共に学び続けられる存在